

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 665 号	氏名	田中 貴子
学位審査委員		主 査	澤井 照光
		副 査	田中 悟郎
		副 査	高村 昇
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、公害認定患者を対象にした過去の大気汚染が呼吸機能と呼吸器症状へ与える影響を縦断的に検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 2009 年の時点において岡山県倉敷市水島地区在住中であった 65 歳以上の公害認定患者 782 名を対象とし、認定時ならびに 2000 年～2009 年までの 10 年間毎年実施された呼吸機能検査と呼吸器症状に関する調査結果を後方視的に調査したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、公害認定時の呼吸機能は正常範囲内に保たれていたが、呼吸困難、喘息、咳と痰の有訴率は高かった。2000 年以降の 10 年間で呼吸機能は有意に低下していたものの、年間変化量は男性、女性でそれぞれ、VC : -40.5ml/y、-32.7ml/y、FEV1 : -27.6ml/y、-23.9ml/y で、一般非喫煙健常者と同等の低下率に留まっていた。呼吸器症状については呼吸困難のみ有意に悪化していたが、喘息症状、咳と痰の悪化はみられなかった。PM2.5 をはじめとした越境汚染が社会的問題となっている現在、世界的に類を見ない本邦での取り組みの結果が、今後の公衆衛生学的施策を考案していく上で大いに貢献するものと期待される。</p> <p>以上のように本論文は呼吸器分野の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			